



平成 29 年度中学校武道授業(相撲)指導法研究事業

平成 29 年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業（主催＝日本武道館、日本相撲連盟、日本武道協議会、後援＝スポーツ庁、長野県木曽町、長野県木曽町教育委員会、協力＝木曽町立木曽町中学校）が 6 月 29・30 日、長野県木曽郡の木曽町中学校（工藤敬司校長）で実施された。相撲の研究事業は今年度 2 回実施予定で、1 回目の今回は、木曽町中学校での相撲授業実践が中心で木曽町民相撲場での第 44 回木曽福島相撲大会（主催：木曽町、木曽町教育委員会、木曽福島公民館）を視察した。

■初日（6 月 29 日）

長野県木曽郡は来場所新関脇に昇進する御岳海（木曽郡上松町出身・出羽海部屋）を生んだ土地柄で、相撲がとても盛んな地域である。郡内の開田中学校、日義小中学校、大桑中学校においては中学校の授業で相撲が実施されている。御岳海は小学生の頃から木曽福島相撲クラブに通い、福島中学校（現木曽町中学校）、木曽青峰高校で活躍し、東洋大学時代には学生横綱、アマチュア横綱に輝いている。

今回、会場となった木曽町中学校は、福島中学校と三岳中学校を統合して昨年度開校された。武道が必修となった平成 24 年度以前（約 30 年前）から相撲の授業を実施しており、担当教員 3 名のうち 2 名は専門外だが、授業はしっかり展開されている。

授業視察＜ 1 年生 ＞

四股、股割り、摺り足、受身などの準備体操後、塵手水を行い、授業を開始した。「力強く押すこと」「押しを生かして勝つこと」を本時の学習課題として確認し、3～4 人のグループに分かれて話し合いを持った。その後、団体戦を行い、グループごとに代表者が反省点及び感想を発表した。生徒からは「背中を丸めて押すことができた」「低い姿勢で押し上げることを意識してできた」などの意見が出た。

◎ 1 年生担当＝今井洋平教諭談

4 月から赴任し、授業で指導し始めて間もないが、相撲は楽しく簡単に試合ができるのが他の武道とは違う魅力だと思う。授業では第一にケガをさせないことを念頭に置いている。その上で、礼儀作法をしっかりと指導し、押し・寄りなどの基本的な動作を通じて運動量を確保することを意識している。



授業視察＜ 2 年生 ＞

本時では「中腰の構えを大事にすること」「自分の型で勝つこと」を課題として授業が行われた。1 年生と同じくグループごとに話し合った後、団体戦を行い、翌日の大会に備えた。

◎ 2 年生担当＝上村裕一教諭談

昔は男子のみであったが、中学校武道必修化に伴い、女子も一緒に相撲の授業をしている。女子は男子に比べて柔軟性も高いので、「恥ずかしい」という気持ちを克服できれば向いている種目だと思う。また、研究事業を通して学んだ指導法を授業に取り入れており、その成果が出ている。学校の協力体制も充実しており、相撲を町全体で応援している環境である。

授業視察＜ 3 年生 ＞

本時では「相手の変化に応じた基本動作から基本技や得意技を用いて相手を崩し、投げたりひねったりし攻防を展開すること」を目標とし、団体戦を行った。生徒からは「帯を持っている力を抜いたりして相手のバランスを崩すことができた」「相手の懐に頭をつけて押すことができた」「相手より腰の高さを低くして押すことができた」などの意見が出た。

◎ 3 年生担当＝水川俊彦教諭談

本校に赴任して 3 年目、前任校では柔道や剣道を教えていた。相撲は相手と密着することにより自分の力に応じた攻防が可能になるところが特徴的だと思う。また、武道なので相手を思いやる気持ちと礼儀作法を大切にしよう指導している。

◇開講式

3 時間の授業視察後に開講式を行った。安井和男日本相撲連盟専務理事は「人口の少ない木曽町において相撲を授業に取り入れていることは、この町の相撲の普及・発展に繋がっていると思う。2 日間しっかり視察・研究をしていただきたい」と述べた。

◇検討協議

まず、三村喜一郎木曽相撲連盟顧問より木曽町の相撲の歴史について「木曽町は相撲好きの明治天皇の巡幸を記念し、町民の相撲大会が行われたことを原点に、町ぐるみで相撲の発展に取り組んでいる」との説明があった。

続いて授業実施者の今井洋平教諭と上村裕一教諭が「柔道の前受身と後ろ受身を授業前の準備運動で必ずやっている。すぐお喋りしてしまうのでテンポよく授業を進めることを心掛けている」等の指導上のポイント、留意点などについて発表した。各研究者からは「立ち合いでケガをすることはないのか」「勝てない生徒への配慮はどのようにしているのか」等、活発な意見交換がなされ、初日は終了した。

■ 2 日目（6 月 30 日）

◇検討協議

まず、日武協設立 40 周年記念『中学校武道必修化指導書』の配布先について確認、次に 11 月開催の第 4 回全国相撲指導者研修会の内容を検討した。

◇研究者の声

◎桑森真介研究者「昨日の情報交換会で三村顧問より『子どもたちが強くなり、優秀な成績を収めることはもちろんうれしいことだが、それ以上に相撲を通じて輝いていってほしい』という話を聞き、競技と教育の関連性が大切であると感じた」

◎廣瀬理奈研究者「他の学校の先生が何をポイントにして何を生徒に伝えるのか、実際に視察させていただくことで計り知れないほどの貴重な経験ができた。指導法についても考え直さなければいけないところを発見できた。また、相撲未経験で授業をしている先生方と悩みや思いを情報交換ができたことが非常に有意義だった」

第 44 回木曽福島相撲大会(木曽町中学校相撲大会)

木曽町民相撲場に場所を移し、第 44 回木曽福島相撲大会を視察した。男女学年ごとの個人戦とクラス対抗の団体戦が行われた。小雨が降る肌寒い天候であったが、熱戦が繰り広げられ、場内が沸いた。

